

令和6年度

年間指導計画

(シラバス)

後 期

宮崎県立延岡青朋高校

通信制課程

< 目 次 >

1. 国語	… P 1	～ P 4
2. 地理歴史	… P 5	～ P 6
3. 公民	… P 7	～ P 8
4. 数学	… P 9	～ P 13
5. 理科	… P 14	～ P 17
6. 保健体育	… P 18	～ P 22
7. 芸術	… P 23	～ P 28
8. 外国語	… P 29	～ P 31
9. 情報	… P 32	
10. 家庭	… P 33	～ P 34
11. 商業	… P 35	～ P 36
12. 総合的な探究の時間	… P 37	～ P 38

科目名	国語入門			学期	後期		
最低面接時数	2時間	レポート数	6回	テスト	有	単位数	2単位
履修できる条件	現代の国語・言語文化を履修していないこと。			開講する場所			
				本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	5割	各回	1.意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2.提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3.有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。			
	面接指導	0割	各回	レポートに即した内容と、発展問題を幅広く学ぶ。			
			全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	テスト	5割	定期	1.30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2.再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技				

1. 目標

高校での国語学習における基礎を身につけることを目的として、語彙力を付ける学習を中心に、読解力や古典の知識を身につける。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

現代文、古文、漢文について中学校の復習をし、読むこと、書くこと、考えることの基礎を身につける。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書			
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	語彙力をつける／新聞コラムの書写	語彙力を中心とした国語力の育成。 新聞コラムの読解。	
2	10/8	語彙力をつける／敬語を使おう	語彙力を中心とした国語力の育成。 敬語力をつけ、実際に活用する。	
3	10/22	古文とは何か／歴史的仮名遣い	古文に触れその特色に関心を持つ。 古文の解釈や表現を味わう。	
4	11/5	漢文の基礎／語彙力をつける	漢文の基礎を身につける。 故事成語の由縁を知る。	
5	11/19	語彙力をつける／小説を読む	小説の読み方の基礎を身につける。	
6	12/3	語彙力をつける／名文を読む	日本語の名文に振れ、興味関心を育てる。	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	実社会に必要な国語の基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	・話すこと・聞くこと 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫する。 ・書くこと 目的や意図に応じて適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。 ・読むこと 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	レポート・スクリーニング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	言語文化			学期	後期		
最低面接時数	2時間	レポート数	6回	テスト	有	単位数	2単位
履修できる条件				開講する場所			
				本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	5割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。			
	面接指導	0割	各回	レポートに即した内容と、発展問題を幅広く学ぶ。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技				

1. 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質能力を育成することを目指す。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項を身につける。(2) 我が国の言語文化に関する事項を身につける。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	言文・701	新編言語文化	002・東京書籍株式会社
教科書			
学習書	言文・701	上記教科書準拠学習書	NHK出版
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	「訓読」・「格言」・「再読文字」	漢文を日本語として読む工夫が訓読であることを理解する。	
2	10/8	古文学習のしるべ・「児のそら寝」	児の気持ちの変化を整理し、最後の描写の意味について考える。	
3	10/22	「さくらさくらさくら」・「伊勢物語」	短歌の内容と心情についての考察を踏まえて、筆者の桜への思いを整理する。	
4	11/5	「デューク」	描かれた出来事、登場人物・場面などを把握する。	
5	11/19	「デューク」	描かれた出来事、登場人物・場面などを把握する。	
6	12/3	「デューク」	描かれた出来事、登場人物・場面などを把握する。	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	論理国語			学期	後期		
最低面接時数	2時間	レポート数	6回	テスト	有	単位数	2単位
履修できる条件	国語総合3単位以上、または現代の国語2単位及び言語文化2単位を修得していること			開講する場所			
				本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	5割	各回	1.意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2.提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3.有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。			
	面接指導	0割	各回	レポートに即した内容と、発展問題を幅広く学ぶ。			
			全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	テスト	5割	定期	1.30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2.再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技				

1. 目標

論理的な文章を読むことにより、多角的なものの考え方を知り、論理的思考力を養う。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項を身につける。(2)話や文章に含まれる情報の扱い方に関する事項を身につける。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	論国701	新編論理国語	2東京書籍
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	備考
1	10/4	はじめに「言葉」がある	「言葉」の大切さ、豊かさを知り、言語に対する感覚を養わせる。
2	10/8	最初のペンギン	創造することについて学ぶことにより、生きる仲での「創造」について考えさせる。
3	10/22	知っておきたいカタカナ語/豊かさ と生物多様性	日常生活で使われるカタカナ語について学習させる。 真の豊かさとは何かを考えさせる。
4	11/5	カフェの開店準備/論理の力 論理とは何か	日常生活の中で繰り返し行われることの意義を考えさせる。 論理的思考力を養わせる。
5	11/19	科学的「発見」とは/論理の力 2 論証する力	日常見ているものの中に、新しい発見があることに気づかせる。 論理的思考力のための根拠を学ばせる。
6	12/3	もう一つの知性/論理の力 3 要約する力	科学に依存しすぎている現代の私たちに対する警鐘を読み取らせる。 文章の要点を確認し、要約する力をつけさせる。

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	古典探究			学期	後期		
最低面接時数	2時間	レポート数	6回	テスト	有	単位数	2単位
履修できる条件	国語総合3単位以上、または現代の国語2単位及び言語文化2単位を修得していること			開講する場所			
				本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	5割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。			
	面接指導	0割	各回	レポートに即した内容と、発展問題を幅広く学ぶ。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技				

1. 目標

昔の人のものの考え方をすることにより、現代との違い、現代につながる思考力について学ばせる。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

我が国の言語文化に関する事項を身につける。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	古探720	高等学校標準古典探究	183第一学習社
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	古文の基礎/伊勢物語 初冠 通ひ路の関守	古文の基礎を学び、読む楽しさを養わせる。	歌物語を読み、歌に込められた登場人物の心情を読み取らせる。
2	10/8	徒然草 よろつことは頼むべからず/方丈記 安元の大火	現代にも通じるものの考え方について考えさせる。	古人が感じた災害の恐ろしさが現代にもつながることを読み取らせ
3	10/22	故事・寓話 推敲 朝三暮四/三国志の世界 死諸葛走生仲達	現在使われている言葉の成り立ちについて学ばせる。	
4	11/5	枕草子 雪のいと高う降りたるを/平家物語 忠度の都落ち	宮廷生活の機知に富んだやりとりの妙味を学ばせる。	戦によって大事なものを失った武人の生き様を学ばせる。
5	11/19	老子 百谷王/荘子 蝴蝶之夢/韓非子 法者王之本也	中国思想を読み、現代にも通じる生き方、ものの考え方に触れさせる。	
6	12/3	大鏡 三舟の才/源氏物語 若紫	歴史上の人物のエピソードを知り、歴史について学ばせる。	物語を読み、登場人物の心情について考えさせる。

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	古典の知識や技能を身に付けるようにする。	古人のものの考え方をすることにより、登場人物の心情に触れ、現代人との相違点、類似点に気づけるようにする。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		地理総合				学期	後期			
最低面接時数		2時間		レポート数	6回	テスト	有	単位数	2単位	
履修できる条件		高校在籍1年経過後 同学期に歴史総合との同時履修は原則不可 ※卒業予定者のみ同学期に歴史総合との同時履修可				開講する場所				
						高千穂	本校(日曜)	富島	高鍋	本校(月曜)
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。						
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。						
	面接指導		各回	最低面接時数を満たすことを単位修得の条件とするのみで、評価の対象としない。それは、面接指導者が固定されておらず、しかも1回限り(2時間)の面接で公平かつ十分な評価が困難なためである。						
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。						
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。						
			試問実技							

1. 目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

卒業の為、絶対必要な科目です。
 ① 様々な地図の読図を基に、方位や時差、日本の位置と領域、国家間の結び付きを学びます。
 ② 生活文化が地理的環境により多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することを学びます。
 ③ 地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、各国で共通する傾向性や課題相互の関連性を学びます。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	地総-703	新地理総合	46 帝国
教科書	地図 311	詳解現代地図	130二宮
学習書			
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	地図や地理情報システムと現代世界	地球上の位置と時差/地図の役割と種類	現代世界の国家と領域 グローバル化する世界
2	10/8	生活文化の多様性と国際理解	世界の地形と人々の生活	世界の気候と人々の生活
3	10/22	生活文化の多様性と国際理解	乾燥した大陸と太平洋の島々での生活 モンスーンの影響を受ける地域での生活	世界の言語・宗教と人々の生活 イスラームと人々の生活の関わり
4	11/5	生活文化の多様性と国際理解	ヒンズー教と人々の生活の関わり 移民の歴史と人々の生活の関わり	植民地支配の歴史と人々の生活の関わり
5	11/19	生活文化の多様性と国際理解	世界の産業と人々の生活 産業力が世界の生活文化に与える影響	経済成長による人々の生活の関わり 地域統合が人々の生活や産業に与える影響
6	12/3	地球的課題と国際協力/持続可能な地域づくりと私たち	地球環境問題/資源・エネルギー問題 人口問題/食糧問題/都市居住問題	自然環境と防災

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できている。地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明する力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		歴史総合				学期	後期				
最低面接時数		2時間		レポート数	6回	テスト	有		単位数	2単位	
履修できる条件		高校在籍1年経過後 同学期に地理総合との同時履修は原則不可 ※卒業予定者のみ同学期に歴史総合との同時履修可				開講する場所					
						本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋	本校(月曜)	
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 新しい再提出基準(60点未満は不合格,教科担任裁量による合否等)に従って添削し,合格した場合評価を「2」とする。 2. <警告>①提出期限に遅れた場合,1回だけは80点以上あれば評価をすべて「2」とする。80点未満の場合,再提出させ合格にすることもある。②30点未満の場合,再提出で合格すれば評価を「2」とする。 3. 有効期限に遅れたり、「警告」2度目のレポートは無効とし,単位修得を認めない。							
			全体	1. レポートが全て合格したことで,日常の学習活動が十分行われたと判断し,レポートの評価を全体評価の3割とする。							
	面接指導		各回	最低面接時数を満たすことを単位修得の条件とするのみで,評価の対象としない。それは,面接指導者が固定されておらず,しかも1回限り(2時間)の面接で公平かつ十分な評価が困難なためである。							
			全体	1. 同一科目で面接指導者が異なるため,評価の対象とはしないが,最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。							
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については,知識の定着が不十分であると判断し,再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は,再テストの規定に従って評価する。							
			試問実技	実施しない。							

1. 目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2. 教科の概要(選択の際のアドバイス)

近現代における世界の歴史の動きを多角的・多面的に学ぶことにより、よりよい日本の社会および国際社会を形成するためにはどのように考え行動すべきなのかを主体的に考えることができるようになる科目です。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	歴史総合707	歴史総合 近代から現代へ	81山川出版社
教科書			
学習書			
その他		新詳 歴史総合	浜島書店

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	結びつく世界、近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	アジア諸地域の繁栄と日本 ヨーロッパ経済の動向と産業革命	19世紀のヨーロッパ 中国の開港と日本の開国
2	10/8	明治維新と日本の立憲体制、帝国主義の展開とアジア	明治維新と諸改革 自由民権運動と立憲体制	条約改正と日清戦争 帝国主義と列強の展開
3	10/22	第一次世界大戦と大衆社会	第一次大戦とロシア革命 国際平和と安全保障	大衆消費社会と市民生活の改善 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加
4	11/5	経済危機と第二次世界大戦、戦後の国際秩序と日本の改革	世界恐慌の発生と各国の対応 ファシズムの台頭	新たな国際秩序と冷戦の始まり 占領下の日本と民主化
5	11/19	冷戦と世界経済	集団防衛体制と核開発 西ヨーロッパの経済復興	55年体制の成立 冷戦構造のゆらぎ
6	12/3	グローバル化する世界、現代の課題	冷戦の終結と国際情勢 ソ連の崩壊と経済のグローバル化	地域紛争の激化 国際社会のなかの日本

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	知識:近現代の歴史の変化に関わる諸事象について,世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え,現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能:諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義,特色などを,時期や年代,推移,比較,相互の関連や現在とのつながりなどに着目して,概念などを活用して多面的・多角的に考察したり,歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や,考察,構想したことを効果的に説明したり,それらを基に議論したりする力を養う。	レポート・スクリーニング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		